

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）

(実施期間：平成 27～令和 2 年度)

代表機関：千葉大学（総括責任者：中山 俊憲）

共同実施機関：東邦大学、量子科学技術研究開発機構（放射線医学総合研究所）

取組の概要

本取組は、千葉大学が代表機関、東邦大学並びに放射線医学総合研究所が共同実施機関となりコンソーシアムを組織することで、男女共同参画推進に関するそれぞれの機関の実績を共有するとともに、新たな取組を共同で行い、多様な立場や経験をもつ人材が活躍できるダイバーシティ研究環境の実現とその環境の周辺機関への波及を目指すものである。

上記目標を達成するために、次の A～H の取組を初期 3 年間の行動計画に基づいて組織的に推進し、かつそれらの取組内容を他の周辺機関へも波及させる。

【取組項目】

ダイバーシティ環境推進

- A. 共同シンポジウム開催
- B. ライフイベント支援
- C. 研究活動再開支援、

研究力向上

- D. 共同研究の支援・促進
- E. 研究インターンシップ
- F. 研究スキルアップ支援、

キャリア・アップ支援

- G. 女性上位職の増加の取組
- H. 上位職増加に向けての女性研究者の裾野拡大

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	取組	取組の成果	実施体制	実施期間終了後の取組の継続性・発展性
A	b	a	a	s	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

3 機関の密接な連携の下、「研究支援要員配置制度」、「共同研究強化支援制度」、「研究スキルアップ支援」等を構築し、ライフイベントと研究の両立支援、女性研究者を研究代表とする共同研究支援を協働して進め、理事、病院長、教授等の上位職への女性の登用、外部研究資金の獲得件数の増加といった成果を挙げたことは評価できる。代表機関における「女性教員昇任システム」の構築、共同実施機関における既存の准修練医制度を活用した「女性医師の継続就業支援」、「研究インターンシップ」の実施等、3 機関それぞれの特性や状況に応じた実効性の高い取組を展開し着実な成果に繋げた。さらに、連携する 3 機関に加え、千葉県内の多くの研究・教育機関や自

治体、県外の機関も参画する「ダイバーシティ CHIBA 研究環境促進コンソーシアム」を構築し、実効性の高い取組の普及を図り、県内外へ高い波及効果を及ぼした。今後は、3機関連携を維持、発展させ、女性研究者、特に上位職に就く女性研究者の増加を図ることを期待する。

- **目標達成度**：女性研究者在職比率が上昇傾向にあることは評価できる。しかしながら、代表機関及び共同実施機関の放射線医学総合研究所においては、女性研究者の在職比率、上位職比率にかかる目標が未達であり、実効性の高い改善策を策定し、早期に目標を達成することを期待する。
- **取組**：3機関が協働して実施した「研究支援要員配置制度」、「共同研究強化支援制度」、「研究スキルアップ支援」、「ダイバーシティ CHIBA 研究環境促進コンソーシアム」の構築に加え、3機関それぞれの特性や状況に応じた「女性教員昇任システム」、「女性医師の継続就業支援」、「研究インターンシップ」等の取組を展開したことは評価できる。
- **取組の成果**：「共同研究強化支援制度」の支援を受けた女性研究者の70%が外部研究資金を獲得し、38%が上位職へ昇任する成果が挙げたことは評価できる。代表機関においては、「女性教員昇任システム」の効率的な運用により5名が教授へ昇任し、また、機関初の女性理事が誕生した。共同実施機関においては、病院長、理事、監事への女性の登用が積極的に進められており、今後の事業の展開が期待できる。
- **実施体制**：代表機関の学長を議長とし、共同実施機関の学長、担当理事、外部委員より成る「統括会議」を創設し、3機関の執行部の綿密な意思疎通と連携を図る体制を構築したこと、また、「ダイバーシティ CHIBA 研究環境促進コンソーシアム」を創設し、千葉県内のみならず広く県外へも実効性の高い取組の普及を図る体制を構築したことは高く評価できる。
- **実施期間終了後の取組の継続性・発展性**：事業終了後も、連携する3機関を軸とした「ダイバーシティ CHIBA 研究環境促進コンソーシアム」の体制を維持し、これまでの取組を継続する方針が明確に示されており評価できる。今後は、3機関それぞれの取組を継続、発展させるとともに、連携による相乗効果をさらに高めることを期待する。